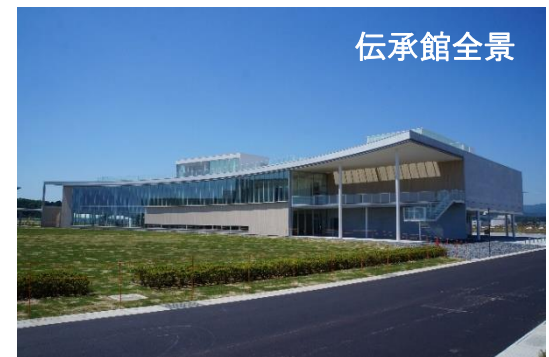


東日本大震災・原子力災害伝承館の事業概要（案）について

- 本年4月より福島イノベーション・コースト構想推進機構による指定管理を開始。
- 6月に建物が竣工。同月から伝承館スタッフが施設内で準備業務スタート。
- 9月20日開館に向け、展示製作や開館準備等を進めている。



1 基本理念

原子力災害と復興の記録や教訓の
未来への継承・世界との共有

福島にしかない原子力災害の
経験や教訓を生かす
防災・減災

福島に心を寄せる人々や団体と連携し、
地域コミュニティや文化・伝統の再生、
復興を担う人材の育成等による
復興の加速化への寄与

3 各事業の概要（案）

（1）収集・保存事業

- 地震・津波の爪跡を残す資料（津波で流された標識等）や避難地域に残された資料（住宅、学校等）、復旧・復興の過程の資料（写真、復興支援等）など約24万点の資料を収集。
- 収集した資料のうち約150点を館内に展示。
- 開館後も計画的な資料収集を継続し、展示資料の入れ替えや企画展などでの資料の活用を図っていく。
- 令和2年度末までに、これまで収集した資料を伝承館の収蔵庫に移転し保存管理する。

（2）調査・研究事業

- 福島における複合災害への対応、復興に係る経験と記録を体系化し、教訓を抽出する。
- 抽出した教訓を展示・研修など様々な手法で情報発信するとともに、復興及び防災を担う人材の育成を図る。

【主な調査・研究対象】

- ・放射線影響への対応
- ・複合災害におけるコミュニケーション
- ・複合災害における行政対応
- ・地域コミュニティの崩壊・再生と住民意識の変遷
- ・地域産業の崩壊・再生と産業構造の変遷

- ①この複合災害を「自分事」として捉え、考えるきっかけとなる場所を目指す。
- ②複合災害の記録や教訓を後世に伝え、開館後も進化する伝承館を目指す。

（3）展示・プレゼンテーション事業

- 震災前の地域の様子から震災の発生、復興に向け取り組む姿などを、6つのストーリーに沿って伝える。
- 「プロローグ」では、展示のイントロダクションとして、来館者へのメッセージを7面の大画面演出で伝える。
- これまで収集してきた「実物資料」の展示を始め、「証言映像」、「語り部」の生の声などを活かした展示を行う。
- 「解説パネル」や「解説映像」では、写真やデータ、映像資料と合わせ、わかりやすい解説を行う。

（4）研修事業

【一般研修（学校、一般団体等向け）】

- 伝承館の展示や現地性を活かし、震災や原発事故、福島が復興する姿などを総合的に学ぶことができる研修を実施する。
- 「展示見学」「フィールドワーク」「被災体験の講演」「ワークショップ」で構成されるパッケージ研修の実施に向け、準備を進めている。

【専門研修（自治体、企業等向け）】

- 収集資料や調査・研究事業の成果等を活かして、復興や防災に関連する専門的な研修を実施する。
- 今年度は、上級研究員とともにモニター研修を実施し、ニーズの把握や研修内容の充実を図る。

2 主要事業

（1）収集・保存

関連資料の収集・保存
オーラルヒストリー等の
記憶も残す

（2）調査・研究

複合災害の教訓を生かし
原子力防災などの
充実・強化と専門分野の
人材の育成につなげる

原子力災害の
「経験」と
そこから得た「教訓」

（3）展示・プレゼン

福島の「光と影」を伝え、
今、そしてこれからを
プレゼンテーションする

（4）研修

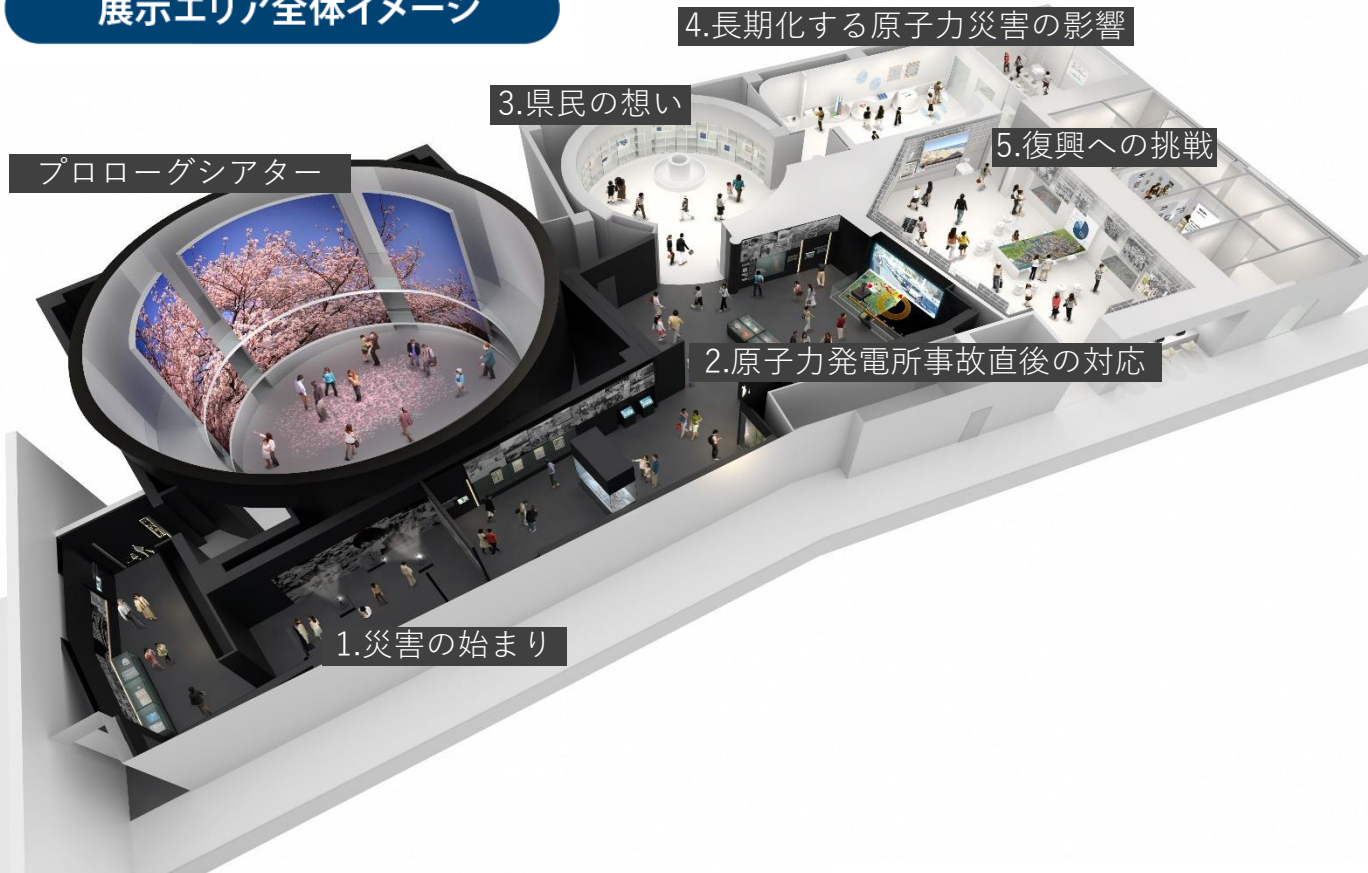
原子力災害の経験に
基づく研修プログラムの
提供

4 伝承館の展示内容（案）

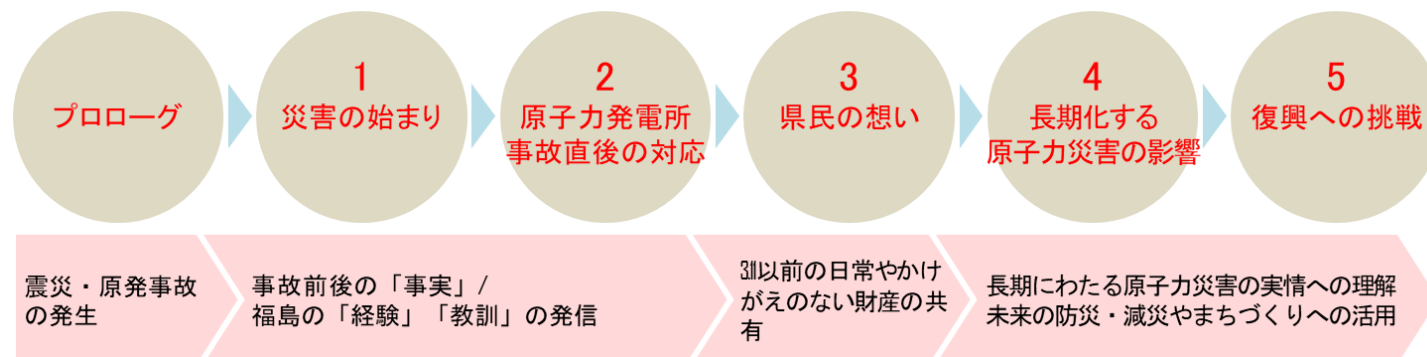
東日本大震災・原子力災害伝承館では、これまで収集してきた24万点を超える資料をはじめ、県民へのインタビュー、復興に挑戦する姿の記録、語り部の生の声などを活かした展示を行います。

来館者それぞれが、この複合災害を「自分事」として捉え、考えるきっかけとなる場を目指します。

展示エリア全体イメージ



展示ストーリー



■主な展示の構成要素

○プロローグ

展示のイントロダクションとして、「災害の自分事化」、「福島の実験と教訓の未来への継承」の2つのメッセージを来館者へ伝えます。



7面の大画面により演出されるプロローグ

○実物資料

約150点の各展示テーマを象徴する実物を展示し、解説によりその資料の由来、背景を補足します。



津波で被災した交通標識と郵便ポスト

○証言映像

浜通りを中心とした県内各地の県民等36人が自らの声で災害について語る証言映像を各展示コーナーに設置します。

○解説パネル

わかりやすい解説と合わせて裏付けとなるデータや写真を表示します。タブレットと連動した多言語対応を行います。

○解説映像

テーマに応じて貴重な記録映像やCG、新規撮影素材を組み合わせ紹介します。また、映像と実物、模型を組み合わせた複合的な展示も行います。



映像と模型による複合展示（第一原発）

○タッチパネル解説

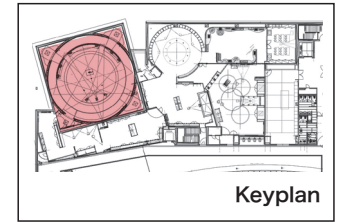
来館者の興味・関心に応じて詳細情報まで閲覧可能な情報端末を設置します。最新情報は館のスタッフが更新可能なシステムを採用します。

○語り部

伝承館内では、語り部による口演を行い、被災体験等の生の声を伝えます。

プロローグ (導入シアター)

地震・津波・原子力発電所事故発生当時の映像とアニメーションを効果的に組み合わせた映像により、基本理念をもとにした『災害の自分事化』、『福島の経験と教訓の未来への継承』の2つのメッセージを来館者へ伝え、展示のイントロダクションとしての役割を担う。



■ 導入シアター空間イメージ

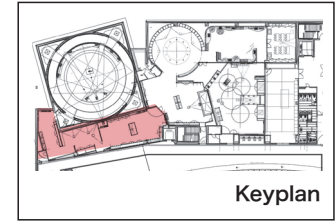


【導入シアター映像シナリオ】



1.災害の始まり

平穏な暮らしを一変させた地震と津波、それに続く原子力発電所事故。複合災害の発生を受け、人々はどのように行動したのか。事故前・事故当時・事故直後の状況を時系列でたどり、さまざまな資料・証言・事故調査の記録から、原子力発電所事故の始まりを克明に描いていく。



■コーナーの展示概要

1-3 原子力発電所事故の発生

地震発生、津波到達、電源喪失、メルトダウン、水素爆発、放射性物質の放出…原子力発電所内で起きた事象を伝える。



映像と模型による複合展示

1-4 災害対策本部の記録

かつて誰も経験したことのない事態に直面し、懸命に対応した人々の記録を、当時の映像や実際に使用されていた実物資料を通して、当時の緊迫感とともに伝える。



事故当時の状況を記載したホワイトボード (実物資料)

1-1 事故前の暮らし

事故前の原子力発電所周辺地域の暮らしはどのようなものだったのか？祭りや学校生活、産業などの記録を通し、描き出す。



大型写真グラフィック

1-2 東日本大震災 ～地震と津波の記録～

福島県沿岸部を壊滅させた地震・津波の恐ろしさを、実写映像・実物資料を通して伝える。



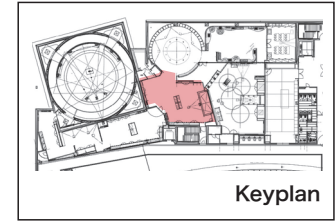
津波被災交通標識と郵便ポスト (実物資料)



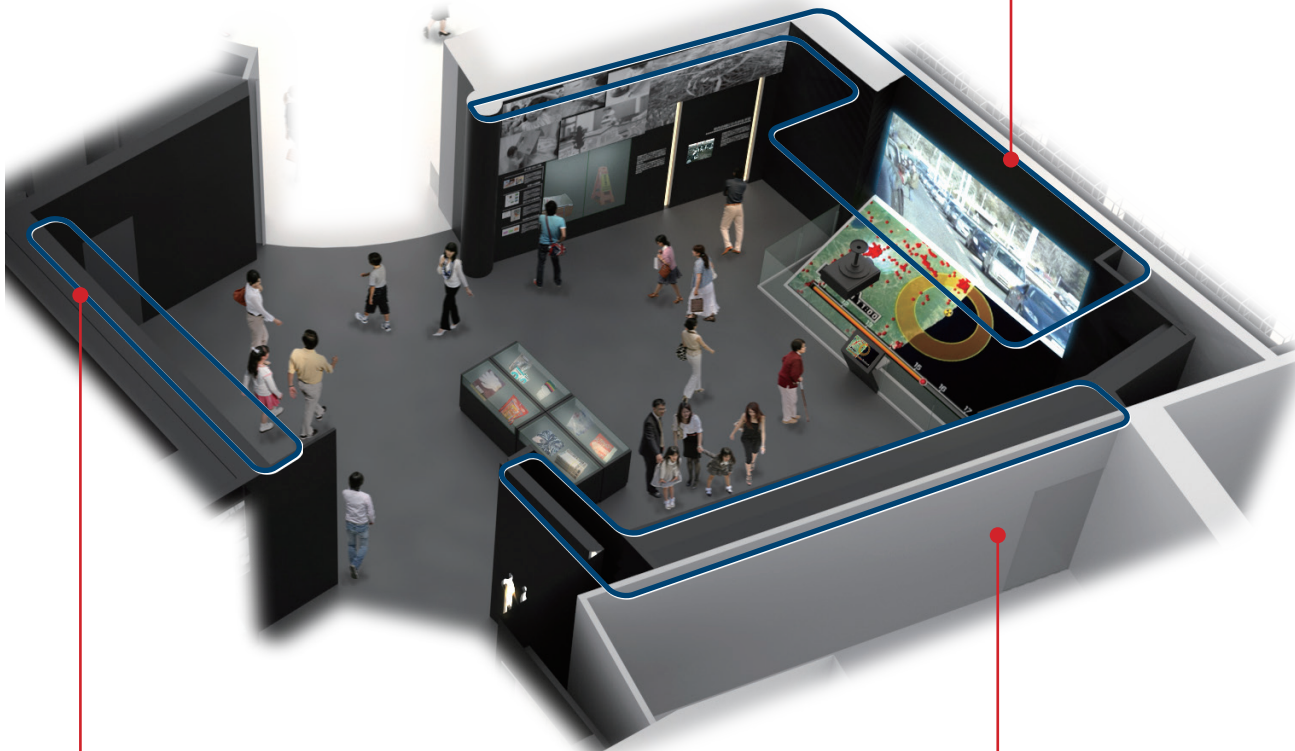
壁面全体に広がる大型映像

2.原子力発電所事故直後の対応

錯綜する情報、転々とする避難生活。これまで経験したことのない原子力発電所事故発生直後の状況やその特殊性を、避難などの様子に焦点を当て、さまざまな資料や証言などをもとに振り返る。



■コーナーの展示概要



2-2 県内に広がる不安

「放射線」という目に見えないものの脅威に初めて晒され、混乱した当時の状況や対応、また、産業への影響の大きさを伝える。

◆ビッグデータを活用した映像演出について

「原発避難の1週間」

膨大なビッグデータや当事者の証言から明らかになってきた、3月11日の発災から1週間の軌跡を、当時の実写映像と、ビッグデータ（NHK協力）による解析映像をシンクロさせることで分かりやすく提示し、災害初期における行動の重要性を改めて訴求する。



2-3 国内外の反応と支援

原子力発電所事故の発生に対する国内外からの反応や、さまざまな支援に対する感謝を伝える。



海外からの支援



応援の寄せ書き

2-1 避難の開始

避難開始当時を振り返る証言を通し、先が見えない状況で故郷を離れ、避難所を転々と移動しなければならなかった人々の想いを想像し、共感を深めてもらう。



避難者へのアンケート結果

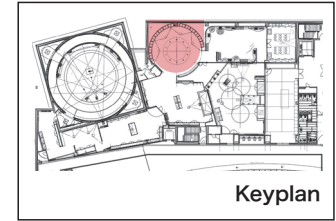


避難所で使用されていた実物資料

3. 県民の想い

平穏な日常が原子力発電所事故後にどのように変わってしまったのか、県民の想いを、「記憶（証言、筆跡、手記等）」と「記録（事実、データ等）」を組み合わせで発信する。

特に、広域的・長期的な避難、あらゆる分野への風評など、原子力災害特有の事象を中心に発信する。



■コーナーの展示概要

3-3 家族や地域生活との別れ・変化

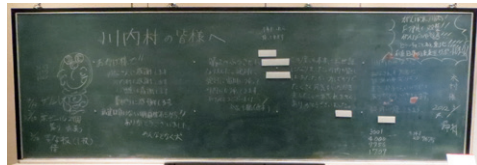
地域の人々の伝統的な風習や歴史・文化の記録とともに、原発事故を機に離ればなれになってしまったふるさとの人々への想い等を来館者と共有する。



安波祭飾り/田植え踊り、早乙女着物 (実物資料)

3-2 楽しかった学校生活・突然の別れ

原発事故前の子どもたちの学校生活の思い出や、その後の別れや友人たちへの想いなどを来館者と共有する。



川内村に避難した人が黒板に残したメッセージ (実物資料)

3-4 生活基盤の変化・将来への想い

原発事故は、経済・産業へ深刻な影響を及ぼした。また別の場所で生活を送り始めた人々もいる。ここではそれぞれの想いについて来館者と共有する。



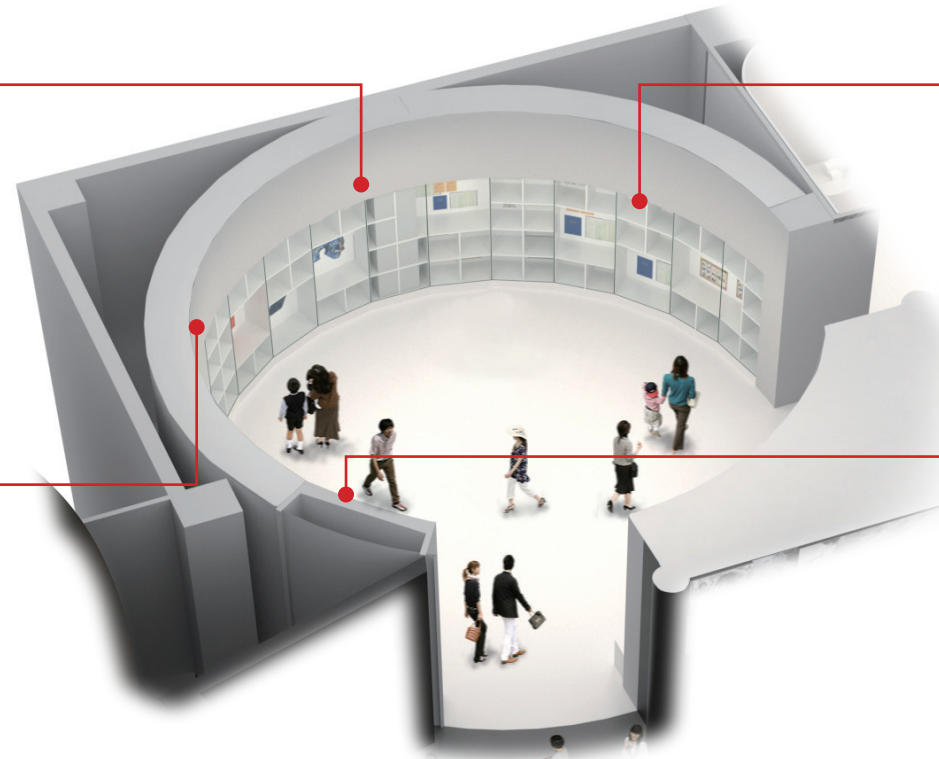
野生動物に荒らされたふすま (実物資料)

3-1 災害時に感じた不安・恐れ

震災・原発事故の瞬間を捉えた記録や痕跡とともに、災害発生時の状況や、人々が感じた恐れや不安について来館者と共有する。



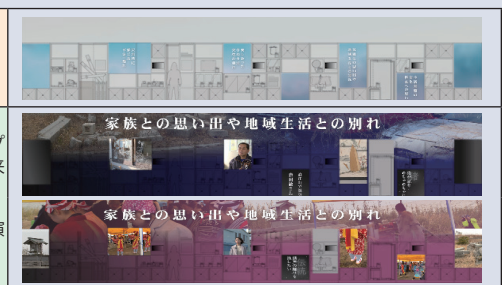
津波被災ガードレール支柱 (実物資料)



◆県民の想いを伝える震災関連資料と映像の複合演出展示について

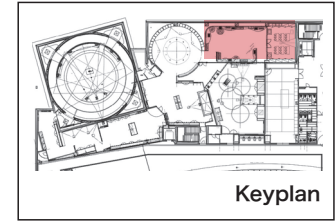
原子力発電所事故前と事故後の人々の暮らし、心情の変化を、証言映像と展示物を組み合わせて、スクリーン全体を活かしたマルチ映像で表現。

通常時	震災関連資料展示 証言映像	・震災関連の資料展示として活用 ・証言映像
映像演出時	映像と展示物の複合演出	・映像の一部が透けて展示物が見える演出やプロジェクションマッピングの手法を用いて、来館者のイメージを増幅
	パノラマスクリーン演出	・パノラマスクリーンとして来館者の没入感を演出



4.長期化する原子力災害の影響

原子力災害が長期化する中で、福島県の人々がどのように対応してきたか、タッチパネル解説や資料を通して学んでもらう。



■コーナーの展示概要

4-2 風評の払拭

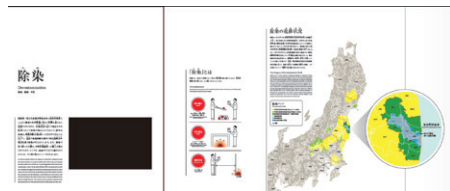
原子力発電所事故が産業に与えた影響とともに、県内で実施されてきた風評払拭の取り組みを紹介する。



農産物の価格推移

4-1 除染

原子力発電所事故後、住民を放射線から守るため、どのように除染が行われてきたのか紹介する。



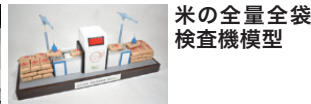
グラフィックイメージ



防護服とフレキシブルコンテナバッグ (実物資料)

4-5 研修・ワークショップ

防災・減災に関する学習やワークショップ、研修が実施できるスペース。さまざまな資料、機器、装置を活用したデモや検査などの体験を予定。



米の全量全袋検査機模型

4-4 健康に関する取り組み

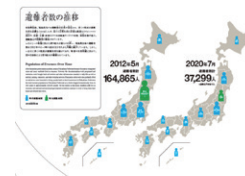
原子力発電所事故の発生以降、県民の健康に関して、新たな課題が発生した。ここでは、県民の健康状態を見守り、健康の維持・増進を図るために実施されているさまざまな取り組みについて紹介する。



県民健康調査について

4-3 長期避難への対応

長期避難に伴う問題は、住居、子育て、コミュニティ形成など複合的で、解決は容易でない。長期避難による諸問題を明らかにするとともに、その解決のため現在進められている取り組みを紹介し、これから何ができるかを考えることにつなげる。



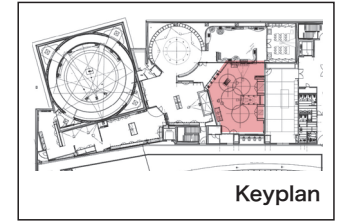
避難者数の推移



5.復興への挑戦

逆境を乗り越え、復興に挑戦する福島県の姿を紹介する。

廃炉作業の進捗、福島イノベーション・コースト構想などの取り組み、そして県民が取り組む復興へのチャレンジに関する情報を発信することにより、県内の他施設、地域への回遊を促す。



■コーナーの展示概要

5-1 復興のあゆみ

災害の発生からこれまでの復興のあゆみと、現在の取り組みについて、最新情報を届ける。



5-2 廃炉の今

福島第一原子力発電所における廃炉作業の内容をタッチパネル解説等で分かりやすく伝える。事故発生から現在までの時系列に沿って、作業経過などの情報発信を行う。



5-3 福島イノベーション・コースト構想

浜通り地域等の産業回復を目指す福島イノベーション・コースト構想と連携し、最新の取り組みを紹介する。また、新産業の現場への回遊やツーリズムを促す。



5-4 未来のまち

来館者が「こうなったらいいな」と思い描く未来のまちと一緒に想像してもらい、福島の未来について考えるきっかけとする。

◆タッチパネルコンテンツについて

みんなで作る未来のまち

来館者が「こうなったらいいな」と思い描く未来のまちを作り上げていくシミュレーションゲーム。同時に6人が体験でき、いくつかのアイテムを選択すると、それに応じてまちが作られていく。



5-5 県民によるチャレンジ

原子力災害によって県民が直面した様々な困難。それを乗り越え、地域の再生に向けた取り組みなど、県民によるチャレンジを紹介する。随時更新しながら、常に新しい取り組みを紹介するとともに、未来への県民の想いを伝える。

